



這えば立て、立てば歩めの親心

子どもたちの成長は、親にとってとても嬉しいことですね。しかし、我が子の育ちを実感する度に、「このぐらいできるならば、次は、こんなこともできるようになるかもしれない。」「こんな子どもになってほしい。」と願うことが増えていき、求めることが高くなるのも親心。まさに、『這えば立て、立てば歩めの親心』です。時折、子どもは、今までできていたはずなのに、親への甘えが出て前の姿に戻ることもあります。子どもの成長は「行きつ戻りつ」です。また、親の方は、我が子を思うあまりに、無意識のうちに親の自己実現に向けて過度に要求してしまうこともあります。こうなってほしいと思うレベルが高いところにあると、思ってみたよりも、すぐに期待通りにならず歯がゆく思うことがあるかもしれません。以前の苦い経験を思い出しました。

実は、私もその昔、息子たちが小・中学生の頃、バスケやサッカーの試合を見る度に、「ここでシュート!」「できたはずなのに。」と、思いながら応援していたことがありました。

息子が小学一年生の時のことです。サッカー仲間の親同士で、子どもと同じようにサッカーの試合をしてみると、シュートを決めることの難しさを痛感しました。そして、体力的にも、5分走っただけで、恥ずかしながら、ハトハトになりました。それ以来、自分よりも長い時間走っている息子たちは、それだけでもすごいことだと思わなくてはと、自分に言い聞かせてきました。

案外、子どもの成長は、親が期待するよりも緩やかなことが多いものです。我が子に、小言を伝えたくなくなる時には、大きく深呼吸してから、「さて、この期待度のレベルは、まだ高すぎたかな?」「マイナス面ばかり見ていないかな。」と、立ち止まって考えてみるとよいですね。

今でも、我が家には、息子たちの小・中学校の時の写真をたくさん飾っています。歯を食いしばり、全力で走っている写真や、優勝旗を前に笑っている写真など、子どもが頑張っている姿は、何年たっても、胸を打つものがあります。子どもの学校生活を追体験して、一緒に楽しませてもらえて幸せだったと振り返っています。また、息子たちが幼い頃から今でも、赤ちゃんの頃の写真も飾っています。生まれてくれた、それだけで幸せだと振り返る機会にもなっています。

一年の育ちを実感できる今、小さいころの写真やビデオを是非お子さんと一緒に見ながら成長を振り返ってみませんか。ちょっと小言を伝えたくなくなる時も、幼い頃のかわいい笑顔に「まあいいか。」「そのうちそのうち」など、おまじないのように唱えながら、今の我が子をありのまま受け止める機会になることを願っています。

これからも、ふくろ幼稚園の子どもたちは、何気ない日常生活の中から多くのことを学んでいくことでしょう。その子なりの一步一步に、心に向けていきたいものですね。今後も、ふくろ幼稚園の教職員一同、子どもの成長を共に喜び、子育ての悩みは、知恵を出し合いながら一緒に考えてまいります。

この園長だよりも、今年度最終号となりました。子育ての奮闘ぶりを思い出すひとときでした。これからも、笑顔あふれる毎日になりますように。応援し続けます。